



平成17年3月期 第1四半期財務・業績の概況(連結)

平成16年7月30日

(平成16年4月1日～平成16年6月30日)

上場会社名 東海旅客鉄道株式会社

(コード番号: 9022 東証、大証、名証各第1部)

(URL http://jr-central.co.jp)

代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 松本 正之

問合せ先責任者 役職名 広報部長 氏名 宮澤 勝己

TEL (052) 564-2549

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有 (詳細は添付資料の4ページを参照して下さい。)

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成17年3月期第1四半期財務・業績の概況(平成16年4月1日～平成16年6月30日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年3月期第1四半期	345,931	3.4	95,726	0.9	50,253	10.8	43,729	69.4
16年3月期第1四半期	334,534		96,591		45,349		25,821	
(参考) 16年3月期	1,384,055		344,445		131,027		72,278	

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
17年3月期第1四半期	19,539.20	
16年3月期第1四半期	11,537.56	
(参考) 16年3月期	32,172.54	

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しています。ただし、15年3月期第1四半期については数値を作成していないため、16年3月期第1四半期におけるパーセント表示は省略しています。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第1四半期	5,493,781	803,205	14.6	358,885.97
16年3月期第1四半期	5,612,482	715,676	12.8	319,776.41
(参考) 16年3月期	5,473,512	765,970	14.0	342,126.07

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	111,891	10,418	17,482	163,953
16年3月期第1四半期	83,038	41,598	28,368	147,605
(参考) 16年3月期	369,981	150,895	217,328	79,554

[参考]

平成17年3月期の連結業績予想(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	687,900	88,800	66,100
通期	1,386,200	132,600	92,000

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 41,107円18銭

(注) 実際の業績は今後の経済情勢等によって業績予想と異なる場合があります。なお、上記業績予想については、平成16年3月期決算時発表の数値に対し、ボーダフォン株式会社株式の売却益等の影響を踏まえて修正しています。

第 1 四半期財務・業績の概況

当四半期における財務・業績の概況について、主な特徴は以下の通りです。

(1) 経営成績

鉄道部門

- ・東海道新幹線については、昨年10月のダイヤ改正と料金・商品体系の見直しにより、ご利用状況は「のぞみ」を中心に引き続き好調に推移しました。加えて、お客様のニーズにあわせ、朝夕のピーク時間帯やゴールデンウィーク期間を中心にタイムリーに臨時列車を運転するなど、適正な輸送力を整備したことにより、輸送人キロは前年同期比4.9%増となりました。
- ・在来線については、引き続きお客様のニーズに即した輸送サービスの提供に努めた結果、普通列車のご利用状況が堅調に推移したことから、輸送人キロは前年同期比0.3%の微増となりました。
- ・販売面については、引き続き「エクスプレス予約」の会員拡大に努めるとともに、4月1日より駅窓口等で一般クレジットカードの取り扱いを開始し、きっぷご購入時の利便性の向上を図りました。また、昨年10月に発足した50歳以上のお客様を対象とした旅クラブ「JR東海50+(フィフティ・プラス)」では、魅力ある商品を提案し、新たな旅行需要の喚起に努めました。さらに、「浜名湖花博(しずおか国際園芸博覧会)」に対応した企画きっぷ等の販売に積極的に取り組みました。その結果、それぞれについて多くのお客様にご利用いただきました。

その他の部門

- ・「ジェイアール名古屋タカシマヤ」については、本年2月の売場改装やタカシマヤカードの売上の増加等により、売上高は前年同期比1.3%増と堅調に推移しました。
- ・名古屋駅広小路口に商業施設ゾーン「キューズマルシェ驛」、JRセントラルタワーズに新規飲食店舗を開業させたほか、名古屋駅でご好評をいただいている「驛麺通り」を静岡駅に出店するなど、引き続き駅立地の有効活用に取り組みました。
- ・保有資産の高度利用や有効活用の観点から、名古屋及び静岡における社宅跡地の開発計画を深度化するとともに、JR東海新横浜駅ビル(仮称)の具体的な開発の検討を進めました。

これらの結果、当四半期の営業収益は3,459億円、経常利益は502億円、四半期純利益はボーダフォン株式会社株式の売却益等を計上したことなどから437億円となりました。

(2) 財政状態

当四半期において、社債による調達を100億円実施した一方、長期借入金を220億円返済しました。

(3) 要約四半期連結財務諸表

要約四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

区 分	前連結会計年度	当四半期末	増 減	(参考)
	(平成16年 3月31日現在)	(平成16年 6月30日現在)		前年同四半期末
	金 額	金 額	金 額	金 額
(資 産 の 部)				
流 動 資 産				
1. 現 金 ・ 預 金	59,205	162,143	102,937	147,507
2. 受 取 手 形 及 び 売 掛 金	21,454	17,815	3,638	19,359
3. 未 収 運 賃	16,445	13,382	3,062	12,783
4. そ の 他 の 流 動 資 産	76,779	54,673	22,106	49,176
流 動 資 産 合 計	173,884	248,015	74,130	228,826
固 定 資 産				
1. 有 形 固 定 資 産	5,048,198	5,004,238	43,959	5,141,897
2. 無 形 固 定 資 産	29,601	21,695	7,905	36,856
3. 投 資 そ の 他 の 資 産	221,828	219,832	1,996	204,901
固 定 資 産 合 計	5,299,627	5,245,766	53,861	5,383,655
資 産 合 計	5,473,512	5,493,781	20,269	5,612,482
(負 債 の 部)				
流 動 負 債				
1. 支 払 手 形 及 び 買 掛 金	42,234	30,404	11,830	33,220
2. 1 年 内 返 済 長 期 借 入 金	109,318	106,986	2,331	41,540
3. 1 年 内 に 支 払 う 鉄 道 施 設 購 入 長 期 未 払 金	194,635	194,635	-	183,015
4. そ の 他 の 流 動 負 債	256,728	259,127	2,399	251,011
流 動 負 債 合 計	602,916	591,154	11,762	508,787
固 定 負 債				
1. 社 債	285,000	295,000	10,000	275,000
2. 長 期 借 入 金	633,025	613,344	19,680	699,196
3. 鉄 道 施 設 購 入 長 期 未 払 金	2,828,391	2,828,391	-	3,073,608
4. そ の 他 の 固 定 負 債	346,240	350,043	3,802	328,932
固 定 負 債 合 計	4,092,657	4,086,779	5,877	4,376,737
負 債 合 計	4,695,574	4,677,933	17,640	4,885,525
(少 数 株 主 持 分)				
少 数 株 主 持 分	11,967	12,642	674	11,280
(資 本 の 部)				
資 本 金	112,000	112,000	-	112,000
資 本 剰 余 金	53,500	53,500	-	53,500
利 益 剰 余 金	590,174	628,232	38,057	549,317
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	11,216	10,394	822	1,779
自 己 株 式	921	921	-	921
資 本 合 計	765,970	803,205	37,235	715,676
負 債 、 少 数 株 主 持 分 及 び 資 本 合 計	5,473,512	5,493,781	20,269	5,612,482

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

要約四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

区 分	前年同四半期	当四半期	増 減	(参考)
	(自平成15年 4月 1日) 至平成15年 6月30日)	(自平成16年 4月 1日) 至平成16年 6月30日)		前連結会計年度 (自平成15年 4月 1日) 至平成16年 3月31日)
	金 額	金 額	金 額	金 額
営 業 収 益	334,534	345,931	11,396	1,384,055
営 業 費	237,943	250,205	12,262	1,039,610
1. 運輸業等営業費及び売上原価	194,813	200,147	5,334	871,208
2. 販売費及び一般管理費	43,130	50,058	6,928	168,401
営 業 利 益	96,591	95,726	865	344,445
営 業 外 収 益	1,006	923	82	5,931
1. 受取利息及び受取配当金	298	433	134	561
2. その他の営業外収益	707	490	217	5,370
営 業 外 費 用	52,248	46,396	5,852	219,348
1. 支 払 利 息	6,874	6,799	75	27,550
2. 鉄道施設購入長期未払金利息	42,084	38,973	3,111	166,148
3. その他の営業外費用	3,288	622	2,665	25,649
経 常 利 益	45,349	50,253	4,903	131,027
特 別 利 益	130	22,866	22,735	12,521
1. 工事負担金受入額等	3	958	955	10,758
2. 投資有価証券売却益	-	21,782	21,782	738
3. その他の特別利益	127	125	1	1,024
特 別 損 失	823	1,301	477	18,245
1. 固定資産圧縮損	112	958	846	10,475
2. その他の特別損失	711	342	369	7,769
税金等調整前四半期(当期)純利益	44,656	71,818	27,162	125,303
法人税、住民税及び事業税	15,263	24,435	9,171	64,989
法人税等調整額	3,086	2,938	147	13,225
少数株主利益	484	714	230	1,261
四半期(当期)純利益	25,821	43,729	17,908	72,278

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

会計処理方法の変更

新幹線鉄道施設等に係る建物及び構築物の減価償却方法については、従来、定額法を適用していましたが、当連結会計年度より定率法に変更しています。

この変更により、従来の方法に比べ、当四半期の減価償却費は 9,480百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はほぼ同額減少しています。

要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

区 分	前年同四半期 (自平成15年 4月 1日) (至平成15年 6月30日)	当四半期 (自平成16年 4月 1日) (至平成16年 6月30日)	増 減	(参考) 前連結会計年度 (自平成15年 4月 1日) (至平成16年 3月31日)
	金 額	金 額	金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー				
1. 税金等調整前四半期(当期)純利益	44,656	71,818	27,162	125,303
2. 減価償却費	55,672	61,449	5,777	225,439
3. 受取利息及び受取配当金	298	433	134	561
4. 支払利息	48,959	45,773	3,186	193,699
5. 投資有価証券売却益	-	21,782	21,782	738
6. 売上債権の減少額(は増加額)	4,411	6,689	2,278	1,345
7. 仕入債務の増加額(は減少額)	7,683	11,882	4,199	1,331
8. 未払金の減少額	32,383	14,756	17,627	16,596
9. その他	10,629	10,790	161	106,688
小計	123,963	147,668	23,704	633,220
10. 利息及び配当金の受取額	330	462	131	594
11. 利息の支払額	5,576	5,290	285	195,629
12. 法人税等の支払額	35,679	30,948	4,730	68,204
営業活動によるキャッシュ・フロー	83,038	111,891	28,852	369,981
投資活動によるキャッシュ・フロー				
1. 有形・無形固定資産の取得による支出	47,619	36,274	11,344	169,698
2. 投資有価証券の売却による収入	-	21,495	21,495	1,111
3. その他(純額)	6,020	4,361	1,659	17,690
投資活動によるキャッシュ・フロー	41,598	10,418	31,180	150,895
財務活動によるキャッシュ・フロー				
1. 社債発行・長期借入による収入	35,000	10,000	25,000	82,000
2. 長期債務の返済による支出	9,113	22,012	12,899	278,103
3. その他(純額)	2,482	5,469	7,951	21,224
財務活動によるキャッシュ・フロー	28,368	17,482	45,851	217,328
現金及び現金同等物の増加額	69,808	83,990	14,181	1,757
現金及び現金同等物の期首残高	77,669	79,554	1,884	77,669
連結子会社による非連結子会社の合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	127	409	281	127
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	147,605	163,953	16,348	79,554

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

セグメント情報

事業の種類別セグメント情報

当四半期（自 平成16年4月1日 至 平成16年6月30日）

（単位 百万円）

	運輸業	流通業	不動産業	その他の 事業	計	消 去 又は全社	連 結
売 上 高							
(1) 外部顧客に対する売上高	280,469	42,511	9,181	13,770	345,931	-	345,931
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,636	2,016	4,432	11,190	20,275	(20,275)	-
計	283,105	44,527	13,613	24,960	366,207	(20,275)	345,931
営 業 費 用	191,747	43,121	10,312	25,493	270,674	(20,468)	250,205
営 業 利 益	91,358	1,406	3,301	533	95,533	193	95,726

会計処理方法の変更

要約四半期連結財務諸表の「会計処理方法の変更」に記載のとおり、新幹線鉄道施設等に係る建物及び構築物の減価償却方法を変更しています。

この変更により、従来の方法に比べ、当四半期の運輸業の減価償却費は9,480百万円増加し、営業利益はほぼ同額減少しています。

前年同四半期（自 平成15年4月1日 至 平成15年6月30日）

（単位 百万円）

	運輸業	流通業	不動産業	その他の 事業	計	消 去 又は全社	連 結
売 上 高							
(1) 外部顧客に対する売上高	269,115	42,451	9,666	13,300	334,534	-	334,534
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,718	1,643	4,175	14,085	22,623	(22,623)	-
計	271,834	44,094	13,842	27,385	357,158	(22,623)	334,534
営 業 費 用	180,880	42,340	10,282	27,168	260,672	(22,729)	237,943
営 業 利 益	90,954	1,754	3,559	217	96,485	106	96,591

（参考）前連結会計年度（自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日）

（単位 百万円）

	運輸業	流通業	不動産業	その他の 事業	計	消 去 又は全社	連 結
売 上 高							
(1) 外部顧客に対する売上高	1,114,515	169,473	38,069	61,995	1,384,055		1,384,055
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	11,077	6,816	17,407	77,695	112,996	(112,996)	
計	1,125,593	176,289	55,477	139,691	1,497,052	(112,996)	1,384,055
営 業 費 用	801,582	170,921	43,284	136,647	1,152,436	(112,826)	1,039,610
営 業 利 益	324,011	5,368	12,192	3,043	344,615	(170)	344,445

平成 16 年 4 ~ 6 月期の業績の概要（連結）

平成 16 年 7 月 30 日
東海旅客鉄道株式会社

1. 経営成績の概要

- ・ 昨年 10 月のダイヤ改正と料金・商品体系の見直し等により、東海道新幹線の運輸収入が増加し、営業収益は増加。
- ・ 長期債務縮減に伴い営業外費用が減少したことなどから、経常利益は増益。また、四半期純利益はボーダフォン株式等の売却益により増加。

(1) 営業収益（3,459 億円 前年同期比 + 113 億円、3.4% 増）

- ・ 東海道新幹線の輸送量（人キロ）は、昨年 10 月のダイヤ改正と料金・商品体系の見直しの効果等により前年同期と比べて 4.9% 増加。この結果、運輸収入は、新幹線が 110 億円（4.8%）増加、在来線も含めた単体では 111 億円（4.3%）増加。
- ・ 「ジェイアール名古屋タカシマヤ」については、本年 2 月の売場改装等の効果により、売上高が 2 億円（1.3%）増加。

(2) 営業利益（957 億円 前年同期比 8 億円、0.9% 減）

- ・ 新幹線鉄道施設等の減価償却の方法を変更したこと（影響額 94 億円）などにより、営業費が 122 億円増加。

(3) 経常利益（502 億円 前年同期比 + 49 億円、10.8% 増）

- ・ 長期債務縮減等に伴い支払利息が減少し、営業外損益が 57 億円改善。

(4) 四半期純利益（437 億円 前年同期比 + 179 億円、69.4% 増）

- ・ 当社および連結子会社において、ボーダフォン株式等の売却益（217 億円）を特別利益に計上。

2. 平成 17 年 3 月期の業績予想

- ・ 既発表値（平成 16 年 3 月期決算時発表の数値）に対し、ボーダフォン株式の売却益等の影響を踏まえて、当期純利益を、中間期・通期ともに 127 億円（単体では 123 億円）上方修正。

〔別紙2〕

要約四半期(個別)貸借対照表

(単位 百万円)

区 分	前事業年度	当四半期末	増 減	(参考)
	(平成16年3月31日現在)	(平成16年6月30日現在)		前年同四半期末
				(平成15年6月30日現在)
(資産の部)				
流動資産	137,079	215,453	78,374	186,180
固定資産	5,165,198	5,112,061	53,137	5,249,703
資産合計	5,302,278	5,327,514	25,236	5,435,884
(負債の部)				
流動負債	586,608	579,598	7,009	491,304
固定負債	3,958,287	3,954,678	3,608	4,233,955
負債合計	4,544,895	4,534,277	10,618	4,725,260
(資本の部)				
資本金	112,000	112,000	-	112,000
資本剰余金	53,500	53,500	-	53,500
利益剰余金	581,137	617,478	36,340	543,910
その他有価証券評価差額金	10,744	10,259	485	1,213
資本合計	757,382	793,237	35,855	710,623
負債及び資本合計	5,302,278	5,327,514	25,236	5,435,884

要約四半期(個別)損益計算書

(単位 百万円)

区 分	前年同四半期	当四半期	増 減	(参考)
	(自平成15年4月1日 至平成15年6月30日)	(自平成16年4月1日 至平成16年6月30日)		前事業年度
				(自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)
営業収益	272,403	283,440	11,037	1,127,783
営業費	180,723	191,153	10,430	800,463
営業利益	91,680	92,287	606	327,319
営業外収益	936	887	49	5,762
営業外費用	51,146	45,715	5,430	215,573
経常利益	41,471	47,459	5,987	117,508
特別利益	112	21,567	21,454	11,942
特別損失	670	958	288	15,420
税引前四半期(当期)純利益	40,913	68,068	27,154	114,030
法人税、住民税及び事業税	13,901	23,060	9,159	60,036
法人税等調整額	2,863	2,793	69	12,982
四半期(当期)純利益	24,149	42,215	18,065	66,977

平成17年3月期の(個別)業績予想(平成16年4月1日 ~ 平成17年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	563,500	83,100	63,500
通期	1,128,400	119,700	87,000

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 38,839円29銭

(注) 実際の業績は今後の経済情勢等によって業績予想と異なる場合があります。なお、上記業績予想については、平成16年3月期決算時発表の数値に対し、ボーダフォン株式会社株式の売却益等の影響を踏まえて修正しています。

〔別紙3〕

旅客輸送人キロおよび旅客運輸収入の比較（JR東海）

（単位 百万人キロ、億円）

			平成15年度 第1四半期	平成16年度 第1四半期	前期比(%)
旅客 輸 送 人 キ ロ	新 幹 線	定 期	288	299	103.7
		定期外	9,583	10,059	105.0
		合 計	9,871	10,358	104.9
	在 来 線	定 期	1,394	1,395	100.1
		定期外	927	933	100.6
		合 計	2,321	2,328	100.3
	合 計	定 期	1,682	1,694	100.7
		定期外	10,510	10,992	104.6
		合 計	12,192	12,686	104.1
旅客 運 輸 収 入	新 幹 線	定 期	34	34	100.8
		定期外	2,276	2,386	104.9
		合 計	2,310	2,421	104.8
	在 来 線	定 期	83	84	100.3
		定期外	178	177	99.9
		合 計	262	262	100.1
	合 計	定 期	118	119	100.4
		定期外	2,454	2,564	104.5
		合 計	2,572	2,683	104.3
	小荷物運賃・料金		0	0	-
合計		2,573	2,684	104.3	

(注) 1. 旅客輸送人キロは単位未満端数四捨五入

2. 旅客運輸収入は単位未満端数切捨